

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

霧島山（新燃岳）では、本日（28日）12時47分に爆発的噴火が発生しました。この爆発により、噴石が火口から南西約1.3kmに飛散したことを確認しました。

昨日（27日）および本日（28日）に、気象庁機動調査班（宮崎地方气象台、鹿児島地方气象台、および福岡管区气象台）は現地調査および聞き取り調査を実施し、降灰は新燃岳～北東から南方向へ分布していました。

新燃岳から2km程度の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石等に警戒が必要です。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石に注意が必要です。

○活動概況

・噴火活動の状況（図3、5）

噴火は1月26日07時31分から継続しています。

本日（28日）12時47分に爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上1,000mまで上がり雲に入りました。地震の最大振幅は新燃岳南西（新燃岳より南西約1.7km）の観測点で773 μ m/s（27日15時41分の爆発は同観測点で3,327 μ m/s）でした。空振の最大振幅は湯之野（新燃岳より南西約3km）の観測点で81.8Pa（27日15時41分の爆発は同観測点で39.7Pa）でした。現地調査で、この爆発により噴石が火口から南西約1.3kmに飛散したことを確認しました。

その後は小規模な噴火が続いています。

・現地調査（図1～5）

昨日（27日）および本日（28日）に、気象庁機動調査班（宮崎地方气象台、鹿児島地方气象台、および福岡管区气象台）は現地調査および聞き取り調査を実施しました。調査によると、降灰は新燃岳の北東から南方向へ分布しました。また、鹿児島県霧島市高千穂河原（新燃岳火口から南東約3km）で直径7～8cm、宮崎県都城市御池町（新燃岳火口から南東約7km）で直径4～6cmの小さな噴石が飛散しているのを確認しました。

鹿児島県霧島市新湯温泉付近から遠望観測では、27日17時35分頃噴煙高度が3,000mまで上がっていました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、火口周辺に高温域を確認しました。

1) 赤外熱映像装置は物体が放射する赤外線を感知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』、『数値地図 25000(行政界・海岸線)』を使用しています(承認番号 平20 業使、第385号)。

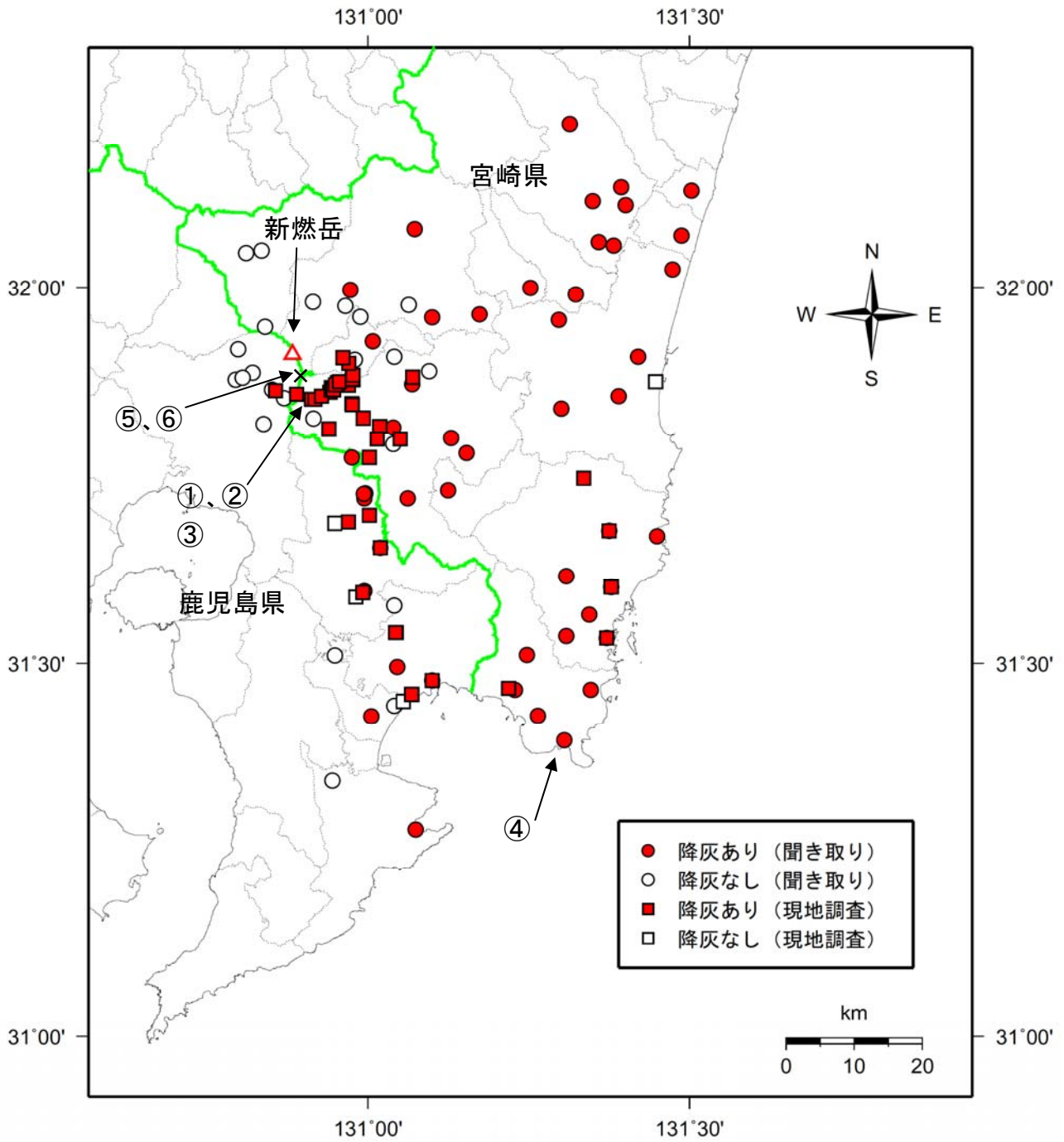


図1 霧島山（新燃岳） 降灰調査状況図（1月27～28日）
降灰は新燃岳の北東～南方向へ分布しました。
図中の①～⑥は図2の写真の撮影場所を示します。



①宮崎県都城市御池町（27日）
御池小学校で火山礫により車のリアガラスが割れていました。



②宮崎県都城市御池町（27日）
御池小学校で直径4～6cmの小さな噴石を確認しました。（新燃岳火口から南東約7km）



③宮崎県都城市御池町（27日）
御池小学校で火山灰が5cm堆積していました。



④宮崎県串間市（27日）
総合運動公園で車の上に降灰を確認しました。



⑤鹿児島県霧島市（27日）
高千穂河原ビジターセンターで降灰を確認しました。



⑥鹿児島県霧島市（27日）
高千穂河原ビジターセンターで降灰が2～3cm程度堆積していました。
（10時30分調べ1㎡あたり26.6kg）

図2 霧島山（新燃岳） 降灰の状況



図 3 霧島山（新燃岳） 噴石の飛散状況（右写真は左写真の黄色円内の拡大図）
現地調査で、本日（28日）12時47分の爆発的噴火により、新燃岳火口の南西約1.3kmに噴石が飛散したことを確認しました。

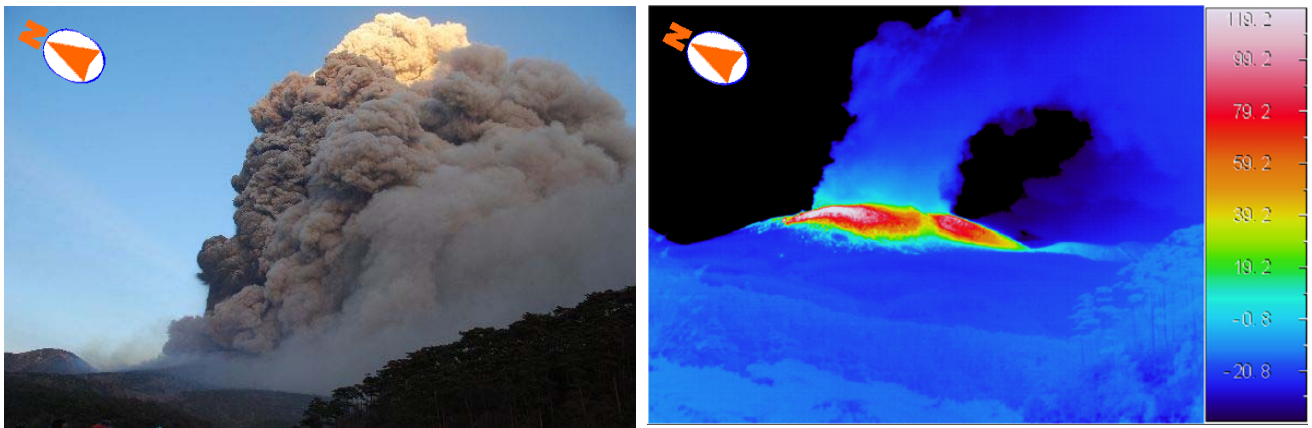


図 4 霧島山（新燃岳） 噴火の状況
（左）27日17時35分の噴火の様子 噴煙高度は3,000mでした。
（右）27日17時51分の地表面温度分布 火口周辺に高温域を確認しました。

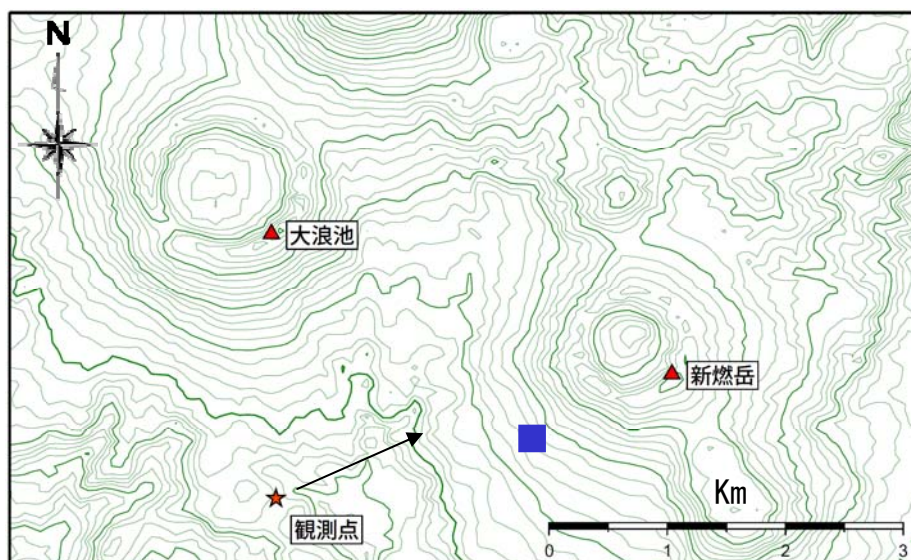


図 5 霧島山 図 3、4 の観測点（鹿児島県霧島市新湯温泉付近）と撮影方向
図中の矢印は観測方向を、四角は噴石の落下位置を示す。